

授業科目名	①		
実務経験講師	②	実務経験	③
開講年度	④ 年度	学 期	⑥
年 次	⑤ 年次	授業回数	⑦ 回
単 位 数	単位	単位時間数	時間
授業科目の概要	⑧		
授業科目の到達目標	⑨		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1			
2			
3			
4			
5			
6	⑩		
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用テキスト	⑪
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	
その他 受講生への要望等	

① 授業科目名

② 実務経験講師

講師に担当する科目に関係する実務経験がある場合、「○」がついています。

実務経験とは・・・資格をもっているだけではなく、実際の施設等で資格を活かして働いた経験があるということ。

※一部を除き、違う学校で同様の科目を教えている等の教員経験は実務経験に含まれません。

③実務経験

担当講師の実務経験内容を簡単に記してあります。

④開講年度

⑤年次

授業を受ける学年です。

⑥学期

前期・・・4月～9月

後期・・・10月～3月

通年（全期）・・・1年間を通して、もしくは前期～後期にかかるどこかの期間で

⑦授業回数

⑧授業科目の概要

授業内容の大まかな説明です。

⑨授業科目の到達目標

授業が修了した時に到達すべき学修の目標です。

⑩授業スケジュールと内容

内容・・・1回の授業がどのような内容で構成されているか

授業方法・・・講義、演習、実習など

課題/小テスト・・・その授業の回に課題や小テストが課されている場合は記載されます。予習の内容が書かれている場合もあります。

⑪使用テキスト

授業で使用するテキストの情報です。プリント等オリジナル教材を使用する場合もあります。

授業科目名	人間の尊厳と自立		
実務経験講師	○	実務経験	精神保健福祉士
開講年度	R4 年度	学 期	前期
年 次	1 年次	授業回数	1 5 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	3 0 時間
授業科目の概要	一般に介護実践では、主に利用者の身体的側面が重視されるため、社会関係の中で、利用者を理解する視点が欠落しがちです。しかし、介護は人間理解と信頼関係のうえに成り立つものです。この科目では、介護における生活支援の中で、利用者への尊厳がどのようにされているのか、また、自立支援にどのように活かされているのかを学びます。		
授業科目の到達目標	①人間の尊厳が生活支援の基本原則であることを学び、利用者を理解することができる。 ②人権思想がどのような経緯で誕生し、歴史的に尊厳と自立が問われてきたかを学習し、現代の社会のしくみにどのように活かされていくべきかを考えることができる。 ③人間の尊厳と自立が生活支援においてどのように活かされているかを学び、利用者とのかかわりの中で実践することができる。 ④利用者の権利擁護について学習し、利用者の権利とは何かを理解することができる。 ⑤利用者の生活には個別性があることを学習し、個別ケアを実践することができる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	○オリエンテーション 自己理解・他者理解	演習	偏愛マップを用いて自己開示をする
2	○人間の尊厳・自立の意義 人間を理解すること (P2-6) Keyword: 尊厳、障害者基本法、バイステックの7原則、ICIDH	講義	人間の尊厳という理念を知る
3	○人権思想の潮流とその具現化 人権、尊厳自立の思想、歴史的経緯 (P6-10) Keyword: 独立宣言、世界人権宣言、自由権、生存権	講義	人権思想における背景、歴史を理解する
4	○日本における人権、尊厳自立 各法における人権、尊厳自立に関する諸規定 (P10-16) Keyword: 憲法 13 条・25 条、社会福祉法等福祉関連法	講義	日本における人権等に関する関係法規を理解する
5	○社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷① 福祉における理念の変遷(P16-27) Keyword: エリザベス救貧法、リッチモンド、ジェンダー、LGBT	講義	世界の社会施策・社会保障・社会福祉について理解を深める
6	○社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷② 福祉における理念の変遷(P27-36) Keyword: 生活モデル、ノーマライゼーション、ADL、QOL	講義	生活モデル・ノーマライゼーション等について考える
7	○人権尊重と権利擁護① 介護における権利擁護と人権尊重(P36-48) Keyword: 権利侵害、依存、多職種連携	講義	権利擁護・権利侵害について考える
8	○人権尊重と権利擁護② 介護における権利擁護と人権尊重(P36-48) Keyword: 権利侵害、依存、多職種連携	講義	権利擁護・権利侵害について考える
9	○中間まとめ 小テストの実施	試験	
10	○介護における自立支援 介護における自立 (P51-56) Keyword: 様々な視点からの自立	講義	自立について考える

11	○介護における自立支援 自立と自律（P57-62） Keyword:自立、自律、自己選択、自己決定	講義	自立について考える
12	○介護における自立支援 意欲と動機づけ（P63-70） Keyword:動機、欲求、残存能力、自立と依存	講義	自立支援について理解する
13	○介護における自立支援 自立支援と ICF（P71-76） Keyword:ICIDH、ICF	講義	自立支援について理解する
14	○期末まとめ 授業内容の復習	講義	授業の振り返りを行う
15	○前期定期試験	試験	

使用テキスト	最新介護福祉士養成講座 人間の理解 第2版（中央法規）
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	介護の基本1
この授業科目から発展する主な科目	介護過程1・2、生活支援技術1・2
成績評価の方法	定期試験（50点）出席（20点）、小テスト（20点）、態度（10点）
その他 受講生への要望等	「人間の尊厳と自立」は、人間理解が大きなテーマです。介護福祉士として仕事をする際、人を理解することは重要になります。授業で分からない事があれば、積極的に質問等してきて下さい。

授業科目名	人間関係とコミュニケーション		
実務経験講師	○	実務経験	介護福祉士
開講年度	R4 年度	学 期	通年
年 次	1 年	授業回数	30 コマ（内6 コマは手話）
単 位 数	4 単位	単位時間数	60 時間
授業科目の概要	人間関係の形成やコミュニケーションの基礎について学びます。 コミュニケーションの果たす役割を理解したうえで、利用者や家族、職員同士の交流に合わせた技法を学び、関係形成の流れについて身につけていきます。 組織やチームとしての運営・人材育成や自己研鑽の必要性を学びます。		
授業科目の到達目標	① 利用者の尊厳を守りながら、他職種共働のためのコミュニケーションを学ぶ。 ② 介護実践のために必要なコミュニケーションの技法について理解を深める。 ③ 集団生活の中で、他者との関わりに合わせたコミュニケーションの選択、障害や状態に応じた技法の選択を行える。 ④ 組織での立ち位置や求められる人物像について学び、専門職としての関わり方を理解する。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	○ コミュニケーションのはじまり 人類の進化・言語使用 Keyword:他者理解・自己覚知	座学形式 独自プリント	
2	○ 人間関係形成と発達心理 認識と段階的発達 Keyword:自己開示・パーソナリティ	演習形式 独自プリント	プロフィール帳を作成
3	○ 発達の個人差 認知のフィルター Keyword:対人認知・人間関係	座学形式 独自プリント	
4	○ 生活と集団 集団の条件 Keyword:同室集団・集団圧力	座学形式 独自プリント	
5	○ 人間関係とストレス ストレス反応の分類 Keyword:ストレッサー・コーピング	演習形式 独自プリント	日常生活の中で感じるストレスを調べる。
6	○ コミュニケーションとパーソナルコミュニケーション送り手と受け手の関係 Keyword:バーバル・ノンバーバル	座学形式 独自プリント	
7	○ 対人援助の基本 人間関係の形成と発展 Keyword:受容・共感・価値観	座学形式 独自プリント	
8	○ メンバーシップコミュニケーション 組織のコミュニケーション Keyword:ティーチング・コーチング	座学形式 独自プリント	
9	手話講師による授業①	別シラバス参照	
10	手話講師による授業②	別シラバス参照	
11	手話講師による授業③	別シラバス参照	
12	手話講師による授業④	別シラバス参照	
13	手話講師による授業⑤	別シラバス参照	

14	手話講師による授業⑥ 授業のまとめ・小テスト	別シラバス参照	手話講師による。
15	○ 前期定期試験	プリント、教科書から 出題	※手話問題は 出ません。
16	○ チームマネジメントの意義 サービスの特性と介護サービス Keyword:ヒューマンサービス	座学形式 独自プリント	
17	○ 求められるチームマネジメント マネジメントとチームマネジメント Keyword:チームアプローチ・チームケア	座学形式 独自プリント	
18	○ 人材育成と自己研鑽 ケアの展開とプロセス Keyword:組織の目標と介護実践	座学形式 独自プリント	
19	○ チームケアについて検討・発表（演習）		
20	○ ケア実践と内容 組織の役割と必要性 Keyword:同職種と多職種	座学形式 独自プリント	
21	○ 情報共有の必要性 共有の場の活用 Keyword:介護施設・チームの取り組み	座学形式 独自プリント	
22	○ リーダーシップとフォローシップ 2つの役割 Keyword:共同と支え合い	座学形式 独自プリント	
23	○ 情報共有の方法と場について考える （演習）		
24	○ 介護福祉職のキャリア 求められる実践力 Keyword:キャリア・実践力	座学形式 独自プリント	
25	○ キャリア支援と開発 自己研鑽の姿勢 Keyword:キャリアパス・キャリアデザイン	座学形式 独自プリント	
26	○ 生涯研修体制 現場と実習指導 Keyword:スーパービジョン	座学形式 独自プリント	
27	○ 組織の存在と立ち位置 組織と法人の理解 Keyword:法人	座学形式 独自プリント	
28	○ 安全と健全 法令遵守と組織運営 Keyword:コンプライアンス	座学形式 独自プリント	
29	○ 理念や委員会の役割について検討・報告 （演習）		
30	○ 後期定期試験	プリント、教科書から出題	

使用テキスト	最新介護福祉士養成講座 人間の理解 第2版（中央法規）
参考書・資料 等	独自プリント 手話教材プリント

この授業科目の前提となる主な科目	コミュニケーション技術 人間の尊厳と自立
この授業科目から発展する主な科目	介護総合演習 生活支援技術 介護実習
成績評価の方法	定期試験、小テスト。 課題の提出 演習への参加状況
その他 受講生への要望等	自分たちの生活の中で、コミュニケーションがどのように使われているか関心をもってみて下さい。授業中の演習では、自分の意見を述べ、他学生の意見をまとめておいて下さい。 小テストや、教科書で指示された部分を見直し、疑問カ所は確認しておくようにして下さい。

授業科目名	人間関係とコミュニケーション（手話）		
実務経験講師	○	実務経験	①手話通訳
開講年度	R4 年度	学 期	前期
年 次	1 年次	授業回数	6 回
単 位 数	2 単位(「人間関係とコミュニケーション」内)	単位時間数	12 時間
授業科目の概要	ろう者にとって、手話は、人間関係を築くうえで重要なコミュニケーションツールのひとつになります。この授業では、実際に当事者を交えて手話でのコミュニケーションを図りながら、手話の基本的知識・技術および理解を深めます。		
授業科目の到達目標	①手話を用いて自己紹介をすることができる。 ②手話を用いて基本的なコミュニケーションを図ることができる。 ③手話でのコミュニケーションを通じて、お互いの気持ちを理解することができる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	○手話① 自己紹介、指文字	演習	
2	○手話② DVD 視聴「ろう者」の生活」	演習	視聴後、感想文を書き提出
3	○手話③ 家族紹介、数字、趣味	演習	
4	○手話④ 仕事、住所	演習	
5	○手話⑤ 復習、模擬試験	演習	
6	○手話⑥ 試験	試験	

使用テキスト	プリント配布
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	障害の理解
この授業科目から発展する主な科目	生活支援技術 2 介護実習
成績評価の方法	試験（50 点）出席（20 点）、小テスト（20 点）、態度（10 点）
その他 受講生への要望等	当事者と接する貴重な機会ですので、積極的な態度で授業に臨んで下さい。

授業科目名	地域福祉の理論と方法		
実務経験講師	○	実務経験	社会福祉士
開講年度	R4 年度	学 期	通年（前期、後期）
年 次	1 年次	授業回数	30 回
単 位 数	4 単位	単位時間数	60 時間
授業科目の概要	“措置から契約へ”という流れが介護保険法の施行後成立し、もはや止められないものになっている現在において、地域福祉を学ぶ意義は非常に大きい。福祉の歴史における地域福祉の役割と今後の展望を学び、ソーシャルインクルージョンの時代における福祉援助者としての行動指針の基盤の一つとする。		
授業科目の到達目標	・地域福祉の歴史及び意義を理解する。 ・諸外国と日本の地域福祉の流れを理解し実習やボランティア活動を通して実感できる。 ・地域におけるサービス提供体制と組織について説明できる。 ・社会福祉史における地域福祉の流れを理解する。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	戦後福祉の概念 （北欧の歴史、ノーマライゼーション） <i>P 2 ～ P 2 7</i>	座学形式	B・ミケルセン、ニルジェ、 ヴォルフエンスベルガー
2	近代の福祉 （英国の歴史的経緯） <i>P 2 ～ P 2 7</i>	座学形式	エリザベス救貧法から新救貧法 まで、福祉団体
3	近代の福祉 （戦前の英国） <i>P 2 ～ P 2 7</i>	座学形式	社会調査、ナショナルミニマム
4	近代の福祉 （明治期の日本） <i>P 2 ～ P 2 7</i>	座学形式	恤救規則、救護法、福祉事業家
5	近代の福祉 （コミュニティ論）	座学形式	奥田道大のコミュニティ4分類
6	現代の日本福祉 （戦後） <i>P 2 ～ P 2 7</i>	座学形式	孝橋理論
7	現代の日本福祉 （70～80年代） <i>P 2 8 ～ P 4 9</i>	座学形式	岡村理論
8	現代の日本福祉 （福祉教育論、基礎構造改革） <i>P 5 0 ～ P 7 0</i>	座学形式	大橋理論
9	民生委員・児童委員 （済世顧問制度、方面委員） <i>P 1 0 4 ～ P 1 1 1</i>	座学形式	笠井信一、林市蔵
10	民生委員・児童委員 （位置づけ、職務等） <i>P 1 0 4 ～ P 1 1 1</i>	座学形式	民生委員法
11	社会福祉協議会 （歴史、役割） <i>P 7 2 ～ P 9 3</i>	座学形式	共同募金との関係

12	社会福祉協議会 (構成、職務等) <i>P 7 2 ~ P 9 3</i>	座学形式	人員配置等
13	法人 (社福法人・NPO法人) <i>P 9 4 ~ P 1 0 3</i>	座学形式	社会福祉事業
14	企業の社会的貢献 (ソーシャルエンタープライズ) <i>P 1 1 2 ~ P 1 1 7</i>	座学形式	フィランソロピー、 マッチングギフト
15	定期試験 (前期)	五肢択一	
16	コミュニティソーシャルワーク (展開) <i>P 1 1 8 ~ P 1 4 8</i>	座学形式	コミュニティワークとの相違点
17	住民参加 (アーンスタインの8つの梯子) <i>P 1 5 0 ~ P 1 7 2</i>	座学形式	パブリックコメント
18	ソーシャルサポートネットワーク (エコロジカルアプローチ) <i>P 1 7 4 ~ P 1 9 0</i>	座学形式	ジャーメイン、ギッターマン
19	ソーシャルサポートネットワーク (互酬性の原理) <i>P 1 7 4 ~ P 1 9 0</i>	座学形式	パットナム、
20	社会資源 (コーディネートと街づくり) <i>P 1 9 2 ~ P 2 1 4</i>	座学形式	リンケージ
21	福祉ニーズ (アウトリーチ) <i>P 2 1 6 ~ P 2 3 2</i>	座学形式	ブラッドショーニーズ分類
22	地域トータルケアシステム (地域包括ケア) <i>P 2 3 4 ~ P 2 5 6</i>	座学形式	多職種連携3モデル
23	福祉サービス評価 (多元主義) <i>P 2 5 8 ~ P 2 6 9</i>	座学形式	ベストフのトライアングル
24	福祉サービス評価 (プログラム、アウトカム、インパクト評価) <i>P 2 7 0 ~ P 2 7 5</i>	座学形式	
25	英国各種報告 (40～70年代) <i>P 2 7 6 ~ P 2 7 8</i>	座学形式	ベバリッジ～ウルフェンデン、 福祉ミックス
26	英国各種報告 (80年代) <i>P 2 7 8 ~ P 2 8 2</i>	座学形式	新保守主義、NHS 及びコミュニティ ケア法
27	英国各種報告 (90年代～) <i>P 2 8 2 ~ P 2 8 5</i>	座学形式	第三の道

28	米国のコミュニティオーガニゼーション論 (戦前の米国) <i>P286~P294</i>	座学形式	セツルメント、ミルフォード会議、 社会保障法
29	欧米のコミュニティワーク理論 (報告書、理論、3ゴール)	座学形式	レイン、ニューステッター、ロス、 ロスマン
30	定期試験 (後期)	五肢択一 選択問題	

使用テキスト	地域福祉の理論と方法 (中央法規)
参考書・資料 等	独自プリント
この授業科目を前提と する主な科目	人間の尊厳と自立
この授業科目から発展 する主な科目	社会の理解
成績評価の方法	定期試験 (50 点)、レポート(20 点)、出席 (20 点)、態度 (10 点)
その他 受講生への要望等	理解を深めるため、疑問に思ったことは随時質問すること。

授業科目名	介護基本 1		
実務経験講師	○	実務経験	介護福祉士、精神保健福祉士
開講年度	R4 年度	学 期	通年
年 次	1 年	授業回数	45 コマ
単 位 数	6 単位	単位時間数	90 時間
授業科目の概要	現在、「介護」をめぐる社会状況はめまぐるしく変化しており、介護福祉士は介護課題に対応する専門職として社会的役割を期待されています。その中で、この科目では、介護を取り巻く社会的環境の変化や、明治時代から現代までの社会福祉や介護福祉の歴史を学習することで、介護福祉士として基本となる考え方を学ぶ授業です。		
授業科目の到達目標	①介護を取り巻く社会状況を学習し、介護問題の社会的背景を認識することができる。 ②社会福祉の歴史を学習し、当時の福祉に対する考え方や社会的弱者（障害者等）に対する扱いについて認識することができる。 ③介護福祉士の制度を学習し、自身の目指す資格の概要を理解することができる。 ④介護を必要とする人の理解や、具体的介護サービスの概要、また、具体的介護方法の知識を学習し、説明することができる。 ⑤利用者の尊厳を守る制度について学習し、実践できる能力を身につけることができる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	○授業オリエンテーション 他者紹介（独自プリント） Keyword:情報収集、伝達	講義 演習	他者紹介シートの記入、 他者紹介
2	○アイスブレイク① 八つの価値（演習シート） Keyword:自他の価値観、価値の順位	演習	他者との価値観の違いを知る
3	○アイスブレイク② ある村で起きた出来事（演習シート） Keyword:自他の価値観、優先順位	演習	情報量により優先順位が 変わることを知る
4	○プロローグ 人の生活の要素と欲求（Ⅱ：P2-7） Keyword:1次・2次・3次、マズローの欲求段階	講義	人の生活と欲求について 理解する
5	○介護を取り巻く状況①（野口） 日本の人口動態（Ⅰ/P15-20,32） Keyword:高齢化率、合計特殊出生率、団塊の世代	講義	高齢化率・合計特殊出生率について 理解する
6	○介護を取り巻く状況②（野口） 家族の種類と世帯構成の推移（Ⅱ/P7-14） Keyword:核家族、拡大家族、世帯構成	講義	家族の種類と世帯構成を 理解する
7	○明治～昭和初期の社会福祉 終戦前までの副子施策と民間福祉事業（Ⅰ/P5-6） Keyword:恤救規則、養老院、戦争と障害者	講義	戦前の社会福祉政策を理解する
8	○戦後社会福祉六法 社会福祉六法とその社会背景（Ⅰ/P6-7） Keyword:福祉三法、福祉六法	講義	社会福祉六法を覚える
9	○生活保護法 生活保護の4原理4原則8扶助（独自プリント） Keyword:憲法第25条、生存権、無差別平等	講義	生活保護の扶助の種類を 覚える
10	○高齢者福祉サービスの整備 老人福祉法改正、老人保健法改正（Ⅰ/P26）	講義	デイ、ショート、老健に ついて理解する

	Keyword:在宅サービス、老人保健施設		
11	○高齢者福祉サービスの充実 高齢者福祉サービスの整備（Ⅰ/P30） Keyword:ゴールドプラン、介護保険法	講義	ゴールドプランの内容を理解する
12	○前期授業復習① 授業内容の復習	演習	5,6,8,9 回の復習プリントを行う
13	○前期授業復習② 授業内容の復習	演習	4,7,10,11 回の復習プリントを行う
14	○前期授業復習③ 小テストの実施と学習の振り返り	試験 演習	
15	○前期定期試験	試験	
16	○前期知識の復習 前期定期試験答案用紙の返却、解説	講義	
17	○社会福祉士及び介護福祉士法① 介護福祉士の定義、義務規定（Ⅰ/P26-30,77-81） Keyword:心身の状況に応じた介護、名称独占と業務独占、 秘密保持義務	講義	介護福祉士の資格制度を覚える
18	○社会福祉士及び介護福祉士法②（金久保） 罰則、資格取得方法と登録（Ⅰ/P82-98） Keyword:罰則規定、欠格事由国家試験、登録機関	講義	介護福祉士の資格制度を覚える
19	○介護福祉士の職能団体 日本介護福祉士会の設立（Ⅰ/P99-103） Keyword:日本介護福祉士会倫理綱領	講義	日本介護福祉士会倫理綱領を覚える
20	○利用者の尊厳① 人のあたり前の生活（Ⅰ/P50-51,P158-159） Keyword:ノーマライゼーション	講義	ノーマライゼーションの歴史を覚える
21	○利用者の尊厳② 身体拘束ゼロへの手引き（Ⅰ/P38-39,Ⅱ/P94-97） Keyword:身体拘束行為、3つの要件	講義	身体拘束禁止について理解する
22	○利用者の尊厳③ 高齢者虐待防止法、障害者虐待防止法、虐待に関するデータ （独自プリント） Keyword:虐待の定義、種類、通報義務	講義	高齢者。障害者虐待防止法を覚える
23	○介護サービス提供の場の特性① 高齢者在宅系サービスの概要（Ⅱ/P48-51） Keyword:訪問・通所・短期入所サービス	講義	居宅サービスの種別と内容を覚える
24	○介護サービス提供の場の特性② 高齢者施設系サービスの概要（Ⅱ/P52） Keyword:特養、老健、有料老人ホーム	講義	施設サービスの種別と内容を覚える
25	○介護サービス提供の場の特性③ 高齢者地域密着型の概要（Ⅱ/P52） Keyword:市町村、小規模多機能、グループホーム	講義	地域密着型サービスの種別と内容を覚える
26	○介護サービス提供の場の特性④ 障害者支援施設の概要（Ⅱ/P54-57） Keyword:介護給付	講義	介護給付の種別と内容を覚える
27	○介護サービス提供の場の特性⑤ 障害者支援施設の概要（就労支援）（Ⅱ/P54-57） Keyword:就労移行支援、就労継続支援	講義	就労支援の種別と内容を覚える

28	○後期授業中間復習① 授業内容の復習	演習	17,18,19,23,24,25 回の復習プリントを行う
29	○後期授業中間復習② 授業内容の復習	講義	20,21,22,26,27 回の復習プリントを行う
30	○後期授業中間復習③ 小テスト実施と解説	試験 講義	
31	介護基本に関する実習報告① 実習で学んだ施設の実際（グループワーク）	演習	施設種別ごとにグループ分けし、内容をまとめる
32	介護基本に関する実習報告② 実習報告	演習	グループごとに発表を行う
33	○介護を必要とする人の理解① 高齢者の特徴（独自プリント） Keyword:ホメオスタシス、老化現象	講義	高齢者の身体的・精神的・社会的変化を理解する
34	○介護を必要とする人の理解② 認知症の基礎知識（独自プリント） Keyword:原因疾患、中核症状、BPSD	講義	認知症の症状と原因疾患を覚える
35	○介護を必要とする人の理解③ 身体障害の分類とその概要（独自プリント） Keyword:肢体不自由、視覚・聴覚障害	講義	身体障害の分類を覚える
36	○介護を必要とする人の理解④ 知的障害、精神障害の分類とその概要 Keyword:知的障害、精神障害、発達障害	講義	知的・精神障害の分類を覚える
37	○介護を必要とする人の理解⑤ 障害者の実際（ビデオ学習）	演習	ビデオを見てレポートを書く
38	○介護職が行う生活支援① 自立支援介護の考え方（Ⅱ/P192-198） Keyword:水分・食事・排泄・歩行	講義	自立支援の4つの基本を理解する
39	○介護職が行う生活支援② 睡眠の知識（独自プリント） Keyword:レム睡眠、ノンレム睡眠、睡眠障害	講義	睡眠のメカニズムと睡眠障害の種類を覚える
40	○介護における相談援助① 社会福祉士の役割と活躍の場（独自プリント） Keyword:相談援助、連絡調整	講義	社会福祉士の定義と役割を理解する
41	○介護における相談援助② 精神保健福祉士の役割と活躍の場（独自プリント） Keyword:相談援助、連絡調整	講義	精神保健福祉士の定義と役割を理解する
42	○後期授業復習① 授業内容の復習	演習	33,34,38,39 回の復習プリントを行う
43	○後期授業復習② 授業内容の復習	演習	35,36,37,40,41 回の復習プリントを行う
44	○後期授業復習③ 小テストの実施と学習の振り返り	試験 演習	
45	○後期定期試験	試験	

使用テキスト	最新介護福祉士養成講座 介護基本Ⅰ・Ⅱ 第2版（中央法規）
参考書・資料 等	必要に応じプリント配布

この授業科目の前提となる主な科目	人間の尊厳と自立
この授業科目から発展する主な科目	介護の基本 2、社会の理解、社会保障 生活支援技術 1・2、介護実習 1・2
成績評価の方法	定期試験（50 点）出席（20 点）、小テスト（20 点）、態度（10 点）
その他 受講生への要望等	「介護の基本 1」は、介護に関する制度や考え方の基礎となる科目なので、繰り返し学習し、知識を習得して下さい。

授業科目名	コミュニケーション技術		
実務経験講師	—	実務経験	—
開講年度	R4 年度	学 期	通年
年 次	1 年次	授業回数	30 回
単 位 数	4 単位	単位時間数	60 時間
授業科目の概要	介護を実践する上で、コミュニケーションは非常に重要な要素になります。人と人が、互いに情報を伝える、感情を共有する、より良い人間関係を形成するコミュニケーション欠くことのできない活動であること理解します。また、介護を必要とする人たちの中には、コミュニケーションに支障を生じている人もいます。その人の特性に合わせたコミュニケーションを展開する必要があります。自分のコミュニケーションの特性を理解し、さらに深めるためのコミュニケーション技術を学びます。		
授業科目の到達目標	①介護におけるコミュニケーションの意義と目的を理解する。 ②コミュニケーションの基本技術を理解する。受容、支持など具体的な技術を学ぶ。 ③障害者と向き合うためのコミュニケーションを考える。障害を理解し、その特性に応じたコミュニケーション支援を学ぶ。 ④介護福祉職は家族と協働して支援していくことを理解する。家族の意向をどう表出し支援していくかを学ぶ。 ⑤介護福祉職チームの力を最大限に発揮するためのコミュニケーションの重要性を理解する。報告、連絡、相談の意義を理解し、その技術を学ぶ。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	コミュニケーションとは何か。 コミュニケーションの発達。 介護におけるコミュニケーションの意義。	講義	
2	介護におけるコミュニケーションの展開。 他の人間関係と異なる援助関係の理解。 受容と支持について。	講義	
3	コミュニケーションの基本技術。 受容の技法。 繰り返しの技法	講義と演習	自分のコミュニケーションの特性について考える。
4	質問の技法。 明確化の技法。 相手を思いやることの重要性。	講義と演習	自分のコミュニケーションの特性について考える。
5	非言語的コミュニケーション。 記号的性コミュニケーション。 条件性コミュニケーション。	講義	身振りや記号。 条件付け。
6	レスポンド条件付け。 オペラント条件付け。 モチベーションを高める条件付け。	講義	三項随伴性。
7	感情の表出。 感情表出の個人差とその因子。 身体部位で表現する感情。	講義と共同作業	身体部位で表現する感情についてグループで調べる。
8	前期中間のまとめ。 小テスト。 後半の講義について。	テストと講義	小テスト。
9	障害者の社会的位置。 ノーマライゼーションについて。	講義	ノーマライゼーション。

	ノーマライゼーションの史的展開。		
10	障害者理解の拡大。 視覚障害の特徴 視覚障害者に対するコミュニケーション技術。	講義	視覚障害を理解する。
11	聴覚障害の特徴。 聴覚障害者に対するコミュニケーション技術。 構音障害の特徴。	講義	聴覚障害を理解する。
12	構音障害者に対するコミュニケーション技術。 失語症の特徴。 失語症者に対するコミュニケーション技術。	講義	失語症や構音障害を理解する。
13	知的障害の特徴。 知的障害の定義。 知的障害者に対するコミュニケーション技術。	講義	知的障害を理解する。対応について考える。
14	前期期末まとめ。 今まで学んだ障害の特徴についての復習。 コミュニケーション技術の復習。	講義	
15	前期定期試験	試験	
16	認知症の人への支援。 認知症種類と症状。 認知症の人に対するコミュニケーション技術。	講義	認知症の症状を理解する。
17	認知症・原因疾患別のコミュニケーション技術。 認知症を支える家族への支援。	講義	認知症の人への対応を考える。
18	精神障害の定義。 うつ病、統合失調症の特徴。 うつ状態や統合失調症の人に対するコミュニケーション技術。	講義	精神障害を理解する。
19	発達障害について。 自閉症スペクトラムの特徴。 発達障害者に対するコミュニケーション技術。	講義	発達障害者への対応を考える。
20	自分のコミュニケーション能力を高めるための演習。(1) 相手の話したいことを理解し、受け止める。	講義と演習	ロールプレイを中心とした演習。
21	自分のコミュニケーション能力を高めるための演習。(2) 自分の傾聴する力を知る。	講義と演習	ロールプレイを中心とした演習。
22	自分のコミュニケーション能力を高めるための演習。(3) 相手の話を支持する。	講義と演習	ロールプレイを中心とした演習。
23	自分のコミュニケーション能力を高めるための演習。(4) 質問の仕方を考える。	講義と演習	ロールプレイを中心とした演習。
24	自分のコミュニケーション能力を高めるための演習。(5) 相手の本当の気持ちや話したいことを明確化する。	講義と演習	ロールプレイを中心とした演習。
25	小テスト あらかじめ提示した課題について時間内でレポートする。	テスト	
26	相手の怒りへの対応。 怒りをコミュニケーションとして捉える。	講義	怒り。

27	相手の沈黙状態の捉え方。 「待つ」ことの意味。	講義	沈黙。
28	ライフサイクル論から相手の置かれている立場と心境を理解する。 (1)	講義	第1段階～第4段階。
29	ライフサイクル論から相手の置かれている立場と心境を理解する。 (2)	講義	第5段階～第8段階。
30	後期定期試験	試験	

使用テキスト	最新介護福祉士養成講座 コミュニケーション技術 第2版(中央法規)
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	人間関係とコミュニケーション 介護の基本1
この授業科目から発展する主な科目	介護過程2 介護実習1、2
成績評価の方法	定期試験(50点) 出席(20点)、小テスト(20点)、態度(10点)
その他 受講生への要望等	

授業科目名	生活支援技術 I		
実務経験講師	○	実務経験	介護福祉士
開講年度	R4 年度	学 期	通年
年 次	1 年	授業回数	54 コマ
単 位 数	8 単位	単位時間数	108 時間
授業科目の概要	利用者の生活状況を把握し、課題や問題点を見つける方法を学びます。また、自立支援に向け、生活機能の低下した利用者の生活向上のために必要な知識や技術を、演習を通して理解し、身につけていきます。		
授業科目の到達目標	① 人のあたりまえの生活とは何かを理解できる。 ② 体験を通して介護を受ける利用者の気持ちを理解できる。 ③ 介護実践における基本的な専門用語を覚え、理解・活用できる。 ④ 基本的な介護技術を身につけることができる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	○授業オリエンテーション 授業の進め方、評価方法（定期試験について） 実技室見学・使用要項	講義	
2	○人の生活の基本（独自プリント） 生活の構成要素、自立の3要因 Keyword:身体的自立・精神的自立・社会的自立	講義	介護における自立の意味について理解する
3	○介護技術の基本知識①（独自プリント） 身だしなみ、姿勢・麻痺の名称と特徴 Keyword:臥位・座位・片麻痺・対麻痺・四肢麻痺	講義	姿勢・麻痺の種類を覚える
4	○介護技術の基本知識②(I :P89~90、ビデオ) ボディメカニクスの原理と実体験 Keyword:支持基底面積・重心	講義 実技	ボディメカニクスの8原則を覚える
5	○杖歩行①（1:P174~186、DVD） 杖の種類、杖歩行の知識 Keyword:T字杖・多点杖・3動作歩行	講義 実技	杖の種類・杖の3動作歩行を覚える
6	○杖歩行② 杖歩行体験（2号館内を杖歩行で移動） Keyword:見守りの位置・階段昇降・患側・健側	実技	片麻痺利用者の杖歩行を体験する
7	○車いす移動①（ I :P131~136） 車いすの種類、車いすの知識 Keyword:車いすの構造名称	講義 実技	車いすの種類・構造の名称・取り扱い方法を覚える
8	○車いす移動② 車いす体験（学校ー新栃木間を車椅子で移動） Keyword:目線・スピード・坂道・段差越え	講義 実技	車いす利用者を体験する
9	○介護ベッドの使用①（ I :P169-171、II : P241-242） ベッドの種類、ベッドの使用方法、ベッド体験 Keyword:キャスタ・ロック・背上げ・背抜き	講義 実技	ベッドの構造・使用方法を覚える、寝たきりを体験する
10	○介護ベッドの使用②（II : P227-241） ベッドメイキング Keyword:中心線、三角コーナー	実技	2人1組でのシーツ交換の手順を覚える
11	○着脱介助基礎編①（II : P47-56） 着脱の知識・留意点 Keyword:自己選択・自己決定	講義 実技	衣服選びは利用者の自己選択によることを理解する

12	○着脱介助基礎編② 座位安定の条件、座位での片麻痺着脱体験 Keyword:座位安定・脱健着患	実技	片麻痺利用者の座位での着脱の手順を覚える
13	○移乗一部介助①(Ⅰ：P136-140) 座位安定の方法、人の自然な立ち上がり Keyword: 座位安定、立ち上がり、健側・患側	講義 実技	座位安定の手順を覚える
14	○移乗一部介助② 一部介助での移乗の原則・手順 Keyword:移乗の方向、前かがみの姿勢、患側の保護	実技	ベッドから車いすへの移乗方法を覚える
15	○食事介助①(Ⅱ：P82-87) 食事介助の基本知識 Keyword:必要摂取量、食事摂取過程、食事姿勢	講義	食事介助に関する知識を理解する
16	○食事介助②(Ⅱ：P88-92) ベッド上食事体験 Keyword:半側空間無視、食物残渣、食事形態	実技	座位とベッド上での食事のおいしさの違いを体験する
17	○生活支援に関する実習報告 実習で体験した生活支援に関する報告書作成(個人ワーク)	演習	レポート作成
18	○前期知識の復習 16回までの授業内容の復習 (課題プリントを個人及びグループ学習)	演習	第2回～16回の内容の復習
19	○小テスト ○盲導犬体験学習事前学習①(独自プリント) 盲導犬学習実施要項、補助犬の種類 Keyword:ガイドヘルプ・盲導犬・介助犬・聴導犬	演習 講義	第2回～16回の小テスト実施
20	○小テスト解説 ○盲導犬体験学習事前学習②(独自プリント) 視覚障害の基本知識 Keyword:盲と弱視、視覚障害と視野障害	講義	小テストの問題を反覆して覚える
21	○盲導犬体験授業① センター職員による盲導犬レクチャー (東日本盲導犬センター)	校外学習	盲導犬に関する知識を習得する
22	○盲導犬体験授業② 盲導犬による視覚障害体験 (東日本盲導犬センター)	校外学習	視覚障害者の体験をする
23	○実技演習① 実技試験要項説明、あいさつ・安全点検の方法 Keyword:利用者の尊厳、安全の確保	実技	ベッド・車いすの安全点検の方法を覚える
24	○実技演習② 事例問題1提示・練習 Keyword:体調確認、自立支援	実技	事例に沿った介護技術ができるようにする
25	○実技演習③ 事例問題2提示・練習	実技	事例に沿った介護技術ができるようにする
26	○実技演習④ 事例問題3提示・練習	実技	事例に沿った介護技術ができるようにする
27	○実技演習⑤ 事例問題1～3総合練習	実技	事例に沿った介護技術ができるようにする
28	○実技演習⑥ 事例問題1～3総合練習(時間計測)	実技	事例に沿った介護技術を時間内でできるようにする
29	○前期定期試験・筆記	試験	筆記試験実施

30	○前期定期試験・実技	試験	実技試験実施
31	○前期授業の復習① 前期筆記試験解説	講義	前期で習得した知識を復習する
32	○前期授業の復習② 前期実技試験解説	実技	前期で習得した介護技術を復習する
33	○起床介助①(Ⅰ：P112-115) 仰臥位から端座位 Keyword: 水平移動・側臥位・座位の安定	実技	起床介助方法を覚える
34	○起床介助②(Ⅰ：P140-143) ベッから車いすへの移乗 Keyword:ボディメカニクス・健側・患側	実技	全介助でのベッドから車いすへの移乗方法を覚える
35	○就寝介助①(Ⅰ：P143-148) 車いすからベッドへの移乗 Keyword:ボディメカニクス・健側・患側	実技	全介助での車いすからベッドへの移乗方法を覚える
36	○就寝介助②(Ⅰ：P124-126) 端座位から仰臥位および側臥位 Keyword:水平移動・側臥位・安楽な体位・褥瘡予防	実技	安楽な体位の方法を覚える
37	○着脱介助応用編①(Ⅱ：P59-64) ベッド上の着脱(上着) Keyword:脱健着患・背中のしわ	実技	ベッド上での着脱介助方法を覚える
38	○着脱介助応用編②(Ⅱ：P59-64) ベッド上の着脱(上着+ズボン)、着脱後の臥位姿勢 Keyword:脱健着患・背中のしわ、体位変換	実技	ベッド上での着脱介助方法を覚える
39	○オムツ交換①(Ⅱ：P187-193) 紙おむつ交換の手順 Keyword:テープの留め方、ギャザー、おむつの処理	実技	おむつ交換の方法を覚える
40	○オムツ交換②(Ⅱ：P187-193) オムツ交換と着脱 Keyword:陰部洗浄、プライバシーの保護	実技	オムツ交換を含めたベッド上での着脱方法を覚える
41	○個浴の入浴①(Ⅱ：P111-193) シャワー・湯船の温度確認方法、お湯をかける手順 Keyword:お湯の適温、確認する部位	実技	温度確認の方法を覚える
42	○一般浴の入浴② 洗身の手順、浴槽出入りの方法 Keyword:健側の活用、椅子と浴槽の高さ、手すりの位置	実技	洗身、浴槽出入りの方法を覚える
43	○生活支援に関する実習報告 実習で体験した生活支援に関する報告書作成 授業で習った介護技術と施設での実践を中心に (個人ワーク)	演習	レポート作成
44	○介護技術に関連した知識の整理①(Ⅰ：P112-115) 褥瘡の原因と予防 Keyword:褥瘡の好発部位	講義	褥瘡に関する知識を理解する
45	○介護技術に関連した知識の整理②(Ⅱ：P74-81) 食事摂取のメカニズム Keyword:食事摂取過程、咀嚼・嚥下	講義	食事摂取過程を理解する
46	○介護技術に関連した知識の整理③(Ⅱ：P8-28) 着脱以外の整容の介助の知識 Keyword:顔を拭く方向、介護職ができる爪切りの範囲	講義	洗顔、爪切り、耳そうじ等の介助方法を理解する
47	○実技演習① 事例問題1提示・練習	実技	事例に沿った介護技術をできるようにする

	Keyword:体調確認、自立支援		
48	○実技演習② 事例問題 2 提示・練習	実技	事例に沿った介護技術をできるようにする
49	○実技演習③ 事例問題 3 提示・練習	実技	事例に沿った介護技術をできるようにする
50	○実技演習④ 事例問題 1~3 総合練習	実技	事例に沿った介護技術をできるようにする
51	○1 年次知識の総復習	演習	復習プリントで知識の振り返り
52	○1 年次実技の総復習 事例問題 1~3 総合練習（時間計測）	実技	事例に沿った介護技術をできるようにする
53	○後期定期試験・筆記	試験	筆記試験実施
54	○後期定期試験・実技	試験	実技試験実施

使用テキスト	最新介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ 第2版（中央法規）
参考書・資料 等	目で見てわかる最新介護術（成美堂出版）
この授業科目を前提となる主な科目	介護の基本Ⅰ、人間関係とコミュニケーション、コミュニケーション技術
この授業科目から発展する主な科目	生活支援技術Ⅱ、介護過程Ⅰ、介護過程Ⅱ、介護実習Ⅰ・Ⅱ
成績評価の方法	出席(20)、態度・提出物(10)、筆記試験(20)、実技試験(50)
その他 受講生への要望等	基本的な介護技術を習得するのはもちろんですが、それだけでなく、利用者体験を通じて介護される側の不自由さ、不快さも理解して、利用者にとって本来あるべきよりよい生活とは何かを常に考えていきましょう。

授業科目名	生活支援技術 1（住環境）		
実務経験講師	○	実務経験	設計士
開講年度	R4 年度	学 期	後期
年 次	1 年次	授業回数	6 回
単 位 数	8 単位(「生活支援技術 1」内)	単位時間数	12 時間
授業科目の概要	現在の介護保険制度において、たとえ高齢になっても、いつまでも住み慣れた地域で暮らすことが理念として掲げられています。また、障害者福祉においても、ノーマライゼーションの考え方により、障害の有無にかかわらず共に同じ地域で暮らすことが求められています。この授業では、それらの理念が実現するために、介護福祉士として必要な住環境に関する知識を学びます。		
授業科目の到達目標	①家族・人と生活空間のかかわりについて学習し、住要求の変化に対応する住まいが求められていることを理解することができる。 ②生活空間を生活行為、人体寸法や起居様式とのかかわりでとらえ、生活空間を整備する際の留意点を理解することができる。 ③快適な室内環境を整備するための基本的事項を学習し、加齢変化にともなって注意が必要となる点を理解することができる。 ④住宅内における不慮の事故などに備えた対応策について理解することができる。 ⑤高齢者・障害者の住まいをめぐる現状について学習し、住まいと地域のつながりを形成していくことの意義を理解することができる。 ⑥居住環境整備にかかわる職種とのかかわりについて理解することができる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	○ 住まいの役割と機能・生活空間 家族と生活空間、生活行為と生活空間（P32-45） Keyword：ライフサイクル、公的空間、私的空間	講義	生活空間について理解する
2	○ 快適な室内環境 生活環境、室内気候、明るさ、音（P46-55） Keyword：湿度、換気、シックハウス、採光、騒音	講義	室内環境について理解する
3	○ 安全に暮らすための生活環境 住居内事故、日本家屋の問題点（P56-63） Keyword：不慮の事故、住宅改修、災害に対する備え	講義	生活環境について理解する
4	○ 高齢者・障害者の住まい 高齢者・障害者の住まい、地域（P64-70） Keyword：住宅系、施設系、ノーマライゼーション	講義	高齢者・障害者のすまいについて理解する
5	○ 居住環境の整備における多職種との連携 他職種の役割、多職種連携の必要性（P71-78） Keyword：多職種連携	講義	多職種連携について理解する
6	○ 定期試験	試験	

使用テキスト	最新介護福祉士養成講座 生活支援技術 I 第 2 版（中央法規）
参考書・資料 等	
この授業科目を前提とする主な科目	生活支援技術 1、介護の基本 1
この授業科目から発展する主な科目	生活支援技術 2、介護の基本 2

成績評価の方法	試験 ※試験結果を生活支援技術 1 に合算
その他 受講生への要望等	私たちが普段暮らしている「住まい」には、様々な工夫があります。また、高齢者や障害者が安心して生活するための工夫もされています。自分たちの生活を振り返りながら住環境整備に関する知識を深め、利用者への支援に役立てていきましょう。

授業科目名	介護過程 1		
実務経験講師	○	実務経験	介護福祉士
開講年度	令和4年度	学 期	後期
年 次	1 年	授業回数	15 コマ
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	介護は、利用者の本来あるべき生活の姿を目標とし、それを実現することを目的としている。そのためには、利用者の生活の課題を明確にし、目標を定め、その目標を達成するために支援するといった「介護過程」という思考の展開が必要である。この科目では、介護過程の入門編として、「物事を進める際の考え方」を身につける。		
授業科目の到達目標	①なぜ介護過程をおこなうのか、その意義と目的を学習し、介護を行う上での基本的な考え方、利用者の支援のあり方を認識することができる。 ②利用者が今まで生きてきた時代を学習し、利用者の生活課題の背景にあるものを見つけ出すことができる。 ③利用者と関わる上で、基本となるコミュニケーションの知識や方法を再認識することができる。 ④ICF を学習し、利用者の情報を ICF の各項目に分類することができる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	○ 介護過程とは 意義・目的、介護過程に必要な知識（P2-6） Keyword:科学的根拠、思考過程、個別ケア	講義	介護過程の意義・目的を覚える
2	○ 介護過程の全体像 根拠に基づく介護過程の展開（P6-9） Keyword:アセスメント、計画立案、実施、評価	講義	介護過程の全体の流れについて理解する
3	○生活支援における介護過程の必要性 施設における介護過程展開のしくみ(P12-17) Keyword:ケアプラン、個別援助計画書	講義	ケアプランと個別援助計画書の関係を理解する
4	○ 利用者の生きてきた時代① 昭和時代のできごとを調べる ※グループワーク	演習	昭和時代の全体像を調べる
5	○ 利用者の生きてきた時代② 実際の昭和時代の生活を調べる ※グループワーク	演習	両親などに昭和時代のことを聞いてくる
6	○ 利用者の生きてきた時代③ これまで調べたことのまとめ ※グループワーク	演習	調べたことを模造紙にまとめる
7	○ 利用者の生きてきた時代④ グループごとの発表、質疑応答、講評	演習	発表時間 15 分にまとめる
8	○ アセスメント 情報収集の方法（P25-30） Keyword:主観的情報、客観的情報	講義	主観的情報と客観的情報の違いを理解する
9	○ 情報収集に向けた基本知識① コミュニケーションの基礎知識（独自プリント） Keyword: 失語症、構音障害、難聴、質問技法	講義	コミュニケーション障害の特性を理解する
10	○ 情報収集に向けた基本知識③ 個人情報保護法に則した記録の書き方（独自プリント） Keyword:個人を特定する情報、ジェノグラム	講義・演習	個人を特定できない記録の書き方を覚える

11	○ ICF① ICF 基づいた分類 (P30-33) Keyword:健康状態、生活機能、背景因子	講義	ICF の考え方を理解する
12	○ ICF② 事例を読み、キーワードを ICF の 11 分類表に まとめる	演習	利用者情報を ICF の項目に 分類する
13	○ 情報シートへの記入 事例を実習用の情報シートにまとめる	演習	利用者情報を除法シートに まとめる
14	○ 期末まとめ 小テストの実施、実施後のグループ学習	試験 演習	
15	○前期定期試験	試験	

使用テキスト	最新介護福祉士養成講座 介護過程 第2版 (中央法規)
参考書・資料 等	ヘルプマンに学ぶ介護過程 (中央法規)
この授業科目の前提となる主な科目	介護の基本1、生活支援技術1、コミュニケーション技術、人間関係とコミュニケーション
この授業科目から発展する主な科目	介護過程2 介護実習Ⅰ－2、介護実習Ⅱ
成績評価の方法	定期試験 (50 点) 出席 (20 点)、小テスト (20 点)、態度 (10 点)
その他 受講生への要望等	この科目は、2年生の実習での課題を展開するうえでの入門編の授業です。また、就職してから利用者への個別ケア、自立支援介護を展開する際にも必要な知識になります。他科目よりも演習が多くなりますが、しっかり授業に参加しましょう。

授業科目名	介護総合演習 1		
実務経験講師	○	実務経験	介護福祉士
開講年度	R4 年度	学 期	通年
年 次	1 年	授業回数	3 0 コマ
単 位 数	4 単位	単位時間数	6 0 時間
授業科目の概要	介護実習における意義や目的を理解し、対象となる利用者の生活様式について学びます。 更に、自己生活・学校生活の中で、日常に必要な行動や生活習慣を把握し、それに合わせた知識や技術を確かめながら、見学実習及び実習Ⅰに向けての準備を進めていきます。		
授業科目の到達目標	① 実習全体の流れを把握し、段階別における課題の位置づけを理解する。 ② 学習や演習と関連付けながら、それぞれの実習段階に向けて、より効果的な学習を行うための準備をする。 ③ 自己生活と比較し、日常生活のあり方について関心を持ち、介護の必要性を学ぶ。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	○ 実習の意義と目的 介護実習の位置づけ Keyword:個別ケア・ニーズ	座学形式 独自プリント	
2	○ 実習課題と方法 実習ファイル作成 Keyword:日誌・計画書・概要	座学形式 独自プリント	
3	○ 実習に臨む姿勢 倫理綱領・倫理基準 Keyword:行動規範・報、連、相	座学形式 独自プリント	
4	○ 課題学習① 介護実習日誌 Keyword:日常生活・生活様式	演習形式 独自プリント	自己生活について記録し、参考資料として使用する。
5	○ 課題学習② 介護実習日誌 Keyword:項目・課題・考察	演習形式 独自プリント	
6	○ 実習施設種別① Keyword:訪問・居宅・通所、リハビリ	座学形式 独自プリント	
7	○ 実習施設種別② Keyword:グループホーム・ケアハウス	座学形式 独自プリント	
8	○ 人生や生活の支援 援助者の QOL keyword: ICF・QOL・ホスピタリティ	演習形式 独自プリント	身の回りのホスピタリティについて調べる。 課題として提出。
9	○ 好感・信頼感を高める 対人コミュニケーション keyword:タッチング・身だしなみ	座学形式 独自プリント	
10	○ 言葉使いと表現方法 敬意を伝えるコミュニケーション Keyword:丁寧語・尊敬語・謙譲語	演習形式 独自プリント	例文に対し、敬語・丁寧語の使い分けを書き、提出。
11	○ 事例検討 実習トラブル時の対応 Keyword:利用者トラブル 事例集使用	グループ 演習 グループ 検討 後発表	

12	○ 実習まとめ・報告会準備 報告書作成、発表資料作成	グループ作成 発表用紙 作成	実習施設について、議題に沿った報告 準備を行う。
13	○ 実習報告会①	報告会開催 合同発表。	感想レポート提出
14	○ 実習報告会②	報告会開催 合同発表	感想レポート提出
15	○ 前期定期試験	配布プリント から出題。	
16	○ 前期実習の振り返り 実習中の問題点・課題点	座学形式 独自プリント	
17	○ 課題の見直し① 実習日誌の見直し Keyword:書き言葉・表現方法	座学形式 独自プリント	
18	○ 課題の見直し② 実習日誌の見直し Keyword:考察の書き方	座学形式 独自プリント	
19	○ 課題学習① かかわりの記録 Keyword:コミュニケーションの記録	演習形式 独自プリント	かかわりの記録 提出。
20	○ 課題学習② かかわりの記録・考察 Keyword:言動・行動・考察	演習形式 独自プリント	かかわりの記録を添削後返却。 新たに、かかわりの記録提出。
21	○ 障害者支援施設 日常生活の流れ Keyword:障害支援区分・個別集団活動	座学形式 独自プリント	
22	○ 医療型障害児 入所施設・療養介護施設 Keyword:重症心身障害児（者）	座学形式 独自プリント	
23	○ 実習課題と方法 実習ファイル作成 Keyword:日誌・計画書・概要	座学・演習形式 独自プリント	
24	○ 事例検討① 実習トラブル時の対応 Keyword:職員・指導者トラブル 事例集使用	グループ演習 実習ファイル 返却	
25	○ 事例検討② 実習トラブル時の対応 Keyword:自分自身によるトラブル事例集使用	グループ演習 実習ファイル 返却	
26	○ 事例検討③ 実習トラブル時の対応 Keyword:ヒヤリハット 事例集使用	グループ演習 実習ファイル 返却	
27	○ 実習まとめ・報告会準備 報告書作成、発表資料作成	グループ作成 発表用紙 作成	実習施設について、議題に沿った報告 準備を行う。
28	○ 実習報告会①	報告会開催 合同発表。	感想レポート提出
29	○ 実習報告会②	報告会開催 合同発表	感想レポート提出
30	○ 後期定期試験	配布プリントから出題。	

使用テキスト	独自プリントのみ
参考書・資料 等	介護総合演習・介護実習（中央法規） 介護福祉スタッフのためのケア・コミュニケーション（ウイネット） 福祉・介護実習ワークブック（株・みらい）
この授業科目の前提となる主な科目	人間関係とコミュニケーション 人間の尊厳と自立
この授業科目から発展する主な科目	介護実習 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ 総合演習Ⅱ
成績評価の方法	定期試験、小テスト 課題の提出 演習への参加状況
その他 受講生への要望等	自分で行く実習施設に関心を持ち、正しく理解できるように、疑問があれば質問にきて下さい。 実施した事や、演習・実習の中での気づきや学びは、しっかり記録に残し、自己の振り返りに役立てて下さい。

授業科目名	介護実習Ⅰ-見学		
実務経験講師	○	実務経験	介護福祉士
開講年度	R4 年度	学 期	前期
年 次	1 年次	授業回数	5 日間
単 位 数	1 単位	単位時間数	40 時間
授業科目の概要	介護実習は 2 年間で合計 450 時間設けられており、介護福祉士養成カリキュラムの約 4 分の 1 を占めています。この見学実習は、入学してから 2 か月後に設定されており、はじめての実習ということで、実際に介護サービスを利用している利用者の様子や、サービスを提供している事業所がどういう所かなど、介護サービスの実態を学びます。		
授業科目の到達目標	①介護サービスを利用する方と出会い、関わりを経験することができる。 ②介護事業所の概要や特徴を理解することができる。 ③介護場面を見学し、介護の実際を理解することができる。 ④1 日のできごとを日誌にまとめることができる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	○介護実習 施設見学 利用者とのかかわり	実習	実習施設の概要 実習日誌
2	○介護実習 利用者とのかかわり	実習	実習施設の概要 実習日誌
3	○介護実習 利用者とのかかわり 巡回指導	実習	実習日誌 巡回までに実習施設の概要を まとめておく
4	○介護実習 利用者とのかかわり	実習	実習日誌
5	○介護実習 利用者とのかかわり 反省会	実習	実習日誌

使用テキスト	なし
参考書・資料 等	実習の手引き 実習ファイル
この授業科目を前提となる主な科目	人間の尊厳と自立、人間関係とコミュニケーション、介護の基本1、生活支援技術1 コミュニケーション技術、介護総合演習、発達と老化の理解、認知症の理解、障害の理解 こころとからだのしくみ
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	出席、態度、日誌の提出
その他 受講生への要望等	概要でも示したとおり、入学後はじめての実習ということで、緊張もあるかと思いますが、その緊張を良い緊張に変えていきましょう。また、わからないことはその都度職員に質問するなど、積極的姿勢で臨むようにしましょう。

授業科目名	介護実習Ⅰ-Ⅰ		
実務経験講師	○	実務経験	介護福祉士
開講年度	R4 年度	学 期	後期
年 次	1 年次	授業回数	10 日間
単 位 数	3 単位	単位時間数	80 時間
授業科目の概要	ある程度学校での各科目の学習が進んだ中で、介護実習Ⅰ－Ⅰでは、それらの知識をもとに、利用者とのコミュニケーションなど、より利用者とのかかわりを深め、それらのかかわりを通じてその方の気持ちを考察したり、基本的な介護を職員と一緒に実際におこなったりするなど、より実践的な実習を展開していきます。		
授業科目の到達目標	①利用者との関わりを記録にまとめ、その方の気持ちを考察することができる。 ②介護事業所の概要や特徴を理解することができる。 ③利用者への介護支援を職員と一緒に実践することができる。 ④1日のできごとを日誌にまとめることができる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	○介護実習 施設見学 利用者とのかかわり、介護実践	実習	実習施設の概要 実習日誌
2	○介護実習 利用者とのかかわり、介護実践	実習	実習施設の概要 実習日誌
3	○介護実習 利用者とのかかわり、介護実践 巡回指導	実習	実習日誌 巡回までに実習施設の概要を まとめておく
4	○介護実習 利用者とのかかわり、介護実践	実習	実習日誌 かかわりの記録
5	○介護実習 利用者とのかかわり、介護実践	実習	実習日誌 かかわりの記録
6	○介護実習 利用者とのかかわり、介護実践	実習	実習日誌 かかわりの記録
7	○介護実習 利用者とのかかわり、介護実践	実習	実習日誌 かかわりの記録
8	○介護実習 利用者とのかかわり 巡回指導	実習	実習日誌 巡回までにかかわりの記録を まとめておく
9	○介護実習 利用者とのかかわり、介護実践	実習	実習日誌
10	○介護実習 利用者とのかかわり、介護実践 反省会	実習	実習日誌

使用テキスト	なし
参考書・資料 等	実習の手引き 実習ファイル
この授業科目を前提となる主な科目	人間の尊厳と自立、人間関係とコミュニケーション、介護の基本1、生活支援技術1 コミュニケーション技術、介護総合演習、介護過程1、発達と老化の理解、認知症の理解 障害の理解、こころとからだのしくみ

この授業科目から発展する主な科目	実習Ⅰ－２、実習Ⅱ
成績評価の方法	出席、態度、日誌・課題の提出
その他 受講生への要望等	この実習より、コミュニケーションや介護など、より実践的な内容に入ります。前回にも増して、積極的姿勢で実習に臨まれることを期待します。

授業科目名	発達と老化の理解		
実務経験講師	○	実務経験	介護福祉士
開講年度	R4 年度	学 期	通年
年 次	1 年次	授業回数	30 回
単 位 数	4 単位	単位時間数	60 時間
授業科目の概要	介護サービスの対象となる人を理解する上で必要な基本的知識として、人が生まれてから死ぬまでの成長・発達過程を通して、老年期における発達課題や高齢者に多い症状・疾病の特徴、老化がもたらす高齢者の生活への影響を身体的、精神的、社会的側面からとらえ、老化に伴う変化の特徴とその対応について学びます。		
授業科目の到達目標	①人の一生におけるそれぞれの発達段階での生理・心理的特徴を学習し、利用者の心身の状況を理解することができる。 ②人の発達過程の最終段階である老年期の発達課題を理解し、利用者の気持ちを踏まえた介護を実践することができる。 ③利用者の心理や行動に与えやすい要因を知るとともに個性を理解し、利用者の社会参加や自己実現を目指す介護を実践することができる。 ④高齢者の身体的機能、知的機能の変化と特徴を理解し、介護福祉士としてどのように対処すればよいか、判断することができる。 ⑤高齢者に多い症状や疾病の特徴を理解し、専門職の一員として多職種との連携を行うことができる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	○成長・発達の考え方、原則・法則 成長・発達、環境的要因、順序性、方向性（P2-9） Keyword:生涯発達の段階、スキヤモンの発達曲線	講義・演習	
2	○成長・発達に影響する要因 遺伝的要因、ホルモンの影響、環境的要因（P10-16） Keyword:成長ホルモン、TORCH 症候群、輻輳説	講義	前回授業の復習
3	○発達理論、発達段階と発達課題 発達理論における発達段階と発達課題（P20-34,47-54,80-84） Keyword:ピアジェ、エリクソン、ハヴィガースト	講義	前回授業の復習
4	○身体的機能の成長と発達① 身体的な成長・発達、運動機能の発達（P35-39） Keyword:原始反射、粗大運動	講義	前回授業の復習
5	○身体的機能の成長と発達② 発達にともなう特徴的な疾病や障害（P39-46） Keyword:自閉スペクトラム症、学習障害、注意欠陥多動性障害	講義	前回授業の復習
6	○社会的機能の発達 社会性・愛着の発達、道徳・向社会的行動（P55-65） Keyword:社会性、愛着、モラル・ジレンマ	講義	前回授業の復習
7	○老年期の定義、老化とは さまざまな高齢者の定義と年齢、老化の特徴、老化学説（P70-79） Keyword:各法の高齢者の年齢、生理的老化、老化学説	講義	前回授業の復習
8	○老年期の発達課題 人格と尊厳・老いの価値、喪失体験（P85-97） Keyword:エイジズム、ライフイベント	講義	前回授業の復習
9	○老年期をめぐる今日的課題 日本の高齢化、高齢者の多様性（P98-106）	講義 演習	前回授業の復習

	Keyword:高齢者が生きてきた時代背景		
10	○授業まとめ 人間の成長と発達の基礎的知識、人間の発達段階と発達課題、老年期の 特徴と発達課題の小テスト	演習	小テスト
11	○老化に伴う身体的な変化と生活への影響① 生理機能の全体的変化 (P110-114) Keyword:ホメオスタシス、免疫機能、フレイル	講義	前回授業の復習
12	○老化に伴う身体的な変化と生活への影響② 骨格系・筋系、脳・神経系、感覚器系 (P114-126) Keyword:骨粗鬆症、脳萎縮、視覚、聴覚	講義	前回授業の復習
13	○老化に伴う身体的な変化と生活への影響③ 循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、免疫系 (P126-136) Keyword:血圧、ガス交換、咀嚼、嚥下、腎臓、ホルモン	講義	前回授業の復習
14	○前期授業まとめ 前期授業内容の復習	講義・演習	前期授業の復習
15	○前期定期試験	試験	
16	○老化に伴う心理的な変化と生活への影響① 認知機能の変化 (P143-150) Keyword:知覚機能、記憶機能	講義	
17	○老化に伴う心理的な変化と生活への影響② 知的機能、パーソナリティの変化 (P151-155) Keyword:結晶性知能・流動性知能、ライチャード	講義	前回授業の復習
18	○老化に伴う心理的な変化と生活への影響③ 老化と動機づけ (P155-161) Keyword:マズロー、適応機制	講義	前回授業の復習
19	○老化に伴う社会的な変化と生活への影響④ 生活上の課題、高齢者の社会的活動 (P164-183) Keyword:少子高齢、老老介護、孤独死、活動理論	講義	前回授業の復習
20	○健康長寿に向けての健康 高齢者の健康 (P188-194) Keyword:平均寿命と健康寿命、健康日本 21、サクセスフルエイジング	講義	前回授業の復習
21	○高齢者の症状・疾患の特徴 高齢者の症状・疾患の特徴(P196-200) Keyword:慢性的、非定型的、廃用症候群	講義	前回授業の復習
22	○高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点① 骨格系・筋系、脳・神経系 (P202-223) Keyword:骨折部位、関節リウマチ、パーキンソン、脳血管疾患	講義	前回授業の復習
23	○高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点② 皮膚・感覚器系、循環器系(P223-235) Keyword:眼疾患、難聴、疥癬、白癬、高血圧症、心疾患	講義	前回授業の復習
24	○高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点③ 呼吸器系、消化器系 (P236-246) Keyword:肺炎、喘息、消化性潰瘍、逆流性食道炎	講義	前回授業の復習
25	○高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点④ 腎・泌尿器系、内分泌・代謝系、歯・口腔疾患 (P246-266) Keyword:慢性腎不全、糖尿病、脂質異常症、歯周病	講義	前回授業の復習
26	○高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑤ 悪性新生物、感染症 (P266-277) Keyword:悪性新生物、インフルエンザ、感染性胃腸炎	講義	前回授業の復習

27	○高齢者に多い病気とその留意点⑥ 精神疾患、その他（P277-287） Keyword:うつ病、統合失調症、熱中症	講義	前回授業の復習
28	○後期授業のまとめ、保健医療職との連携 チームケア、連携のポイント（P294-297） 他職種連携についてグループワーク 小テスト Keyword:他職種連携	講義・演習	前回授業の復習 小テスト
29	○後期授業のまとめ 後期授業内容の復習	講義・演習	前回授業の復習
30	○後期定期試験	試験	

使用テキスト	最新介護福祉士養成講座 発達と老化の理解 第2版（中央法規）
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	こころとからだのしくみ
この授業科目から発展する主な科目	医療的ケア基本研修 介護実習
成績評価の方法	定期試験（50点）出席（20点）、小テスト（20点）、態度（10点）
その他 受講生への要望等	この授業を通じて、人間の成長や老化現象の基礎的な知識を習得し、利用者、とくに高齢者を広い視野で理解することで、介護実践に役立てていきましょう。そのためにも、一度の授業だけではなく、繰り返し復習するようにしていき、日頃から積極的に高齢者とかかわりをもつよう心がけてみましょう。

授業科目名	認知症の理解		
実務経験講師	○	実務経験	介護福祉士
開講年度	R4 年度	学 期	通年
年 次	1 年次	授業回数	30 回
単 位 数	4 単位	単位時間数	60 時間
授業科目の概要	認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症というものを、人を中心に捉え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて、施設での具体的事例を織り交ぜながら講義を行う。		
授業科目の到達目標	①認知症の原因となる代表的な疾患と、中核症状および特徴的な行動・心理症状を学び、生活への影響と関連させて説明することができる。 ②症状から派生する生活への影響を利用者側に立ってアセスメントし、介護を実践するための基礎的能力を身につけることができる。 ③認知症への効果的な非薬物療法の種類と概要を説明することができる。 ④認知症がある人と家族に対する、専門職や地域によるチームサポート体制について考察し、わかりやすく説明することができる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	オリエンテーション 認知症を理解する必要性	講義	
2	認知症の基礎的理解① 認知症の定義・認知症ケアの理念	講義	
3	認知症の基礎的理解② 認知症ケアの歴史	講義	
4	認知症の基礎的理解③ 認知症を取り巻く状況	講義	
5	認知症に関する医学的知識① 脳のしくみ・記憶のしくみ	講義	
6	認知症に関する医学的知識② 認知症と物忘れの違い・せん妄やうつとの違い	講義	
7	認知症の症状と生活への影響① 認知症の中核症状	講義	
8	認知症の症状と生活への影響② 認知症の行動・心理症状・中核症状との関連	講義	
9	認知症の症状と生活への影響③ 演習「認知症の対応困難事例の支援」	演習	
10	認知症の原因疾患と治療① 認知症の原因疾患の概要と疾患別特徴	講義	
11	認知症の原因疾患と治療② 認知症の検査と薬物治療の概要	講義	
12	認知症の原因疾患と治療③ 認知症の人への非薬物療法	講義	
13	認知症の原因疾患と治療④ 演習「非薬物療法の実践」	演習	
14	前期授業まとめ 試験範囲の提示 演習「前期授業で習得した認知症に関するレポート」	演習	
15	前期定期試験	試験	

16	認知症の心理的理解① 認知症の人の心理・家族の思い	講義	
17	認知症の心理的理解② 認知症の人が示す行動	講義	
18	認知症の人と家族に対する支援① 認知症に伴う生活への影響	講義	
19	認知症の人と家族に対する支援② 認知症ケアをおこなっている家族の問題点	講義	
20	認知症の人と家族に対する支援③ 認知症の人とその家族支援における多職種連携	講義	
21	認知症の人と家族に対する支援④ 若年性認知症の人の生活の理解と支援	講義	
22	認知症の人と家族に対する支援⑤ 演習「認知症の人とその家族支援に関する事例検討」	演習	
23	認知症ケアの実際① パーソンセンタードケア・ユマニチュード	講義	
24	認知症ケアの実際② 認知症の人へのアセスメントツール	講義	
25	認知症ケアの実際③ 認知症の人への終末期医療と介護	講義	
26	認知症の人の地域生活支援① 認知症の人のよりよい生活環境	講義	
27	認知症の人の地域生活支援② 認知症になっても安心して暮らせる社会	講義	
28	認知症の人の地域生活支援③ 演習「認知症になっても安心して暮らせる社会づくりにおける地域連携」	演習	
29	後期授業まとめ 試験範囲の提示 演習「後期授業で習得した認知症に関するレポート」	演習	
30	後期定期試験	試験	

使用テキスト	最新介護福祉士養成講座 認知症の理解 第2版（中央法規）
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	介護の基本1 障害の理解
この授業科目から発展する主な科目	介護の基本2 介護実習1、2
成績評価の方法	定期試験（50点）出席（20点）、小テスト（20点）、態度（10点）
その他 受講生への要望等	教科書の知識だけでなく、具体的な事例も紹介していきますので、積極的に授業に参加して下さい。

授業科目名	障害の理解		
実務経験講師	○	実務経験	社会福祉士
開講年度	R4 年度	学 期	通年
年 次	1 年	授業回数	30 コマ
単 位 数	4 単位	単位時間数	60 時間
授業科目の概要	障がいのある人の心理や身体機能を理解し、生活支援を軸に、障害の定義や基本理念、障害者福祉制度を学習していきます。さらに障害別の基礎的理解と特性に応じた支援について学び、本人のみならず、家族を含め、環境にも配慮した介護の視点の習得、多職種との連携と協働について多角的な支援のあり方について学習していきます。		
授業科目の到達目標	①障害の種類や特性を介護実践と関連付けて認識することができる。 ②障害者の暮らしと生活課題について介護の専門的視点から支援できる力が身につく。 ③障害福祉の基本理念を歴史の変遷を通して学び、認識することができる。 ④障害者福祉に関する法律や制度を実際の活用を踏まえて理解し、利用者や家族に説明できる力を身につけることができる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	○障害の概念 障害のとらえ方（P2～12） Keyword: I C I D H と I C F、障害者の定義	講義	
2	○障害者福祉の基本理念① ノーマライゼーション・リハビリテーション（P13-19） Keyword: インクルージョン、エンパワメント、ストレングス	講義	I C I D H と I C F について
3	○障害者福祉の理念② 国際障害者年・障害者権利条約（P20-26） Keyword: 国際障害者年、合理的配慮、アドボカシー	講義	障害者の定義について
4	○障害者福祉に関連する制度 障害者総合支援法、障害者差別禁止法、障害者虐待防止法（P27-36） Keyword: 措置制度、障害福祉サービス、就労支援	講義	国際障害者年、障害者権利条約について
5	○障害者福祉制度と介護保険制度 理念の違い、サービス名、サービス内容の違い（P37-42） Keyword: 障害者総合支援法・介護保険制度・併用	講義	障害者福祉に関連する制度について
6	○障害のある人の心理 人間の欲求・適応機制・障害受容（P46-52） Keyword: 欲求、マズロー、障害受容過程、ピアサポート	講義	障害者福祉制度と介護保険制度について
7	○肢体不自由（運動機能障害） 肢体不自由とは（p54-65） Keyword: 障害種類、原因、疾患、四肢切断	講義	障害受容、マズローのについて
8	○視覚障害 視覚障害とは（P66-73） Keyword: 障害種類、原因、心理的側面の支援	講義	肢体不自由（運動機能障害）について
9	○聴覚・言語障害 聴覚・言語障害とは（P74-84） Keyword: 聴覚障害分類、コミュニケーション手段	講義	視覚障害について
10	○重複障害 重複障害とは（P85-93） Keyword: 支援制度、種類、コミュニケーション手段	講義	聴覚・言語障害について

11	○重症心身障害 重症心身障害とは（P148-156） Keyword:定義、障害分類、原因、支援方法	講義	重複障害について
12	○知的障害 知的障害とは（P160-171） Keyword:定義、原因、ライフステージ、療育手帳	講義	重症心身障害について
13	○高次脳機能障害 高次脳機能障害とは（P184-195） Keyword:診断基準、原因、障害特性、相談支援	講義	知的障害について
14	○前期期末まとめ 前期まとめと前期試験対策	講義	前期まとめ。定期試験対策
15	○前期定期試験	試験	
16	○後期知識の復習 後期定期試験答案用紙の返却	講義	前期試験見直し
17	○内部障害 1 心臓機能障害・呼吸機能障害とは（P94-110） Keyword:原因、疾患、治療方法、特性に応じた支援	講義	
18	○内部障害 2 腎臓・膀胱・直腸・小腸機能障害とは（P111-132） Keyword:腎臓病、透析、尿路ストーマ、経管栄養	講義	心臓機能障害・呼吸機能障害について
19	○内部障害 3 H I V・肝臓機能障害（P133-146） Keyword:感染経路、性感染症、ウイルス肝炎	講義	腎臓・膀胱・直腸・小腸機能障害について
20	○精神障害 1 精神障害とは（P172-182） Keyword:診断基準（I C D, D S M）、原因、障害特性、手帳制度	講義	H I V・肝臓機能障害について
21	○精神障害 2 統合失調症・気分（感情）障害とは（P176-182） Keyword:三症状、うつ病、医療サービスと福祉サービス	講義	診断基準（I C D, D S M）、原因、障害特性、手帳制度について
22	○発達障害 1 発達障害とは（P197-202） Keyword:定義、法的位置づけ、障害特性	講義	三症状、うつ病、医療サービスと福祉サービスについて
23	○発達障害 2 日常生活/社会生活上の困難（P203-209） Keyword:支援上の留意点、社会的障壁、支援機関	講義	発達障害の定義、法的位置づけ、障害特性について
24	○知的障害のある人の自立支援 ロールプレイング（P221）	演習	発達障害の支援上の留意点、社会的障壁、支援機関について
25	○難病 1 難病とは（P210-215） Keyword:定義、種類、A L S, パーキンソン病	講義	ロールプレイの感想
26	○難病 2 難病特性の理解（P215-219） Keyword:医療的ケア、難病対策、難病法、指定難病	講義	難病種類、A L S, パーキンソン病について
27	○地域のサポート体制 地域のサポート体制・チームアプローチ（P224-247） Keyword:共生社会、社会資源、タックマンモデル	講義	難病特性について
28	○家族への支援 家族に障害のある人がいるということ（p250-274）	講義	地域のサポート体制・チームアプローチについて

	Keyword:レスパイトケア、ストレングス、		
29	○後期期末まとめ 後期まとめと後期試験対策	演習	前期まとめ。定期試験対策
30	○後期定期試験	試験	

使用テキスト	最新介護福祉士養成講座 障害の理解 第2版 (中央法規)
参考書・資料 等	介護福祉士国試ナビ 2023 (中央法規)
この授業科目の前提となる主な科目	介護の基本 1
この授業科目から発展する主な科目	生活支援技術 2 介護過程 2 医療的ケア
成績評価の方法	定期試験 (70 点) 出席 (20 点)、態度 (10 点)
その他 受講生への要望等	講義の予習復習を行うことによってより学びが深まります。講義での質問は積極的に行ってください。過去問、模擬試験で間違った問題及び気になった点は繰り返し学習しましょう。

授業科目名	こころとからだのしくみ		
実務経験講師	○	実務経験	医師
開講年度	R4 年度	学 期	通年
年 次	1 年次	授業回数	60 回
単 位 数	8 単位	単位時間数	120 時間
授業科目の概要	1. 人体の構造と機能を理解する 2. 各疾患の病態を理解する 3. 人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や、心理的側面への配慮について理解する。		
授業科目の到達目標	1.生活支援技術とこころとからだのしくみを関連づけることができる。 2.介護福祉士国家試験の基礎力を身につけることができる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	オリエンテーション 「日本の医療、及び福祉」とは	講義	
2	「健康」とは何か	講義	
3	第1章 こころの仕組みを理解する 第1節 人間の欲求とは	講義	
4	第1節 人間の欲求とは	講義	
5	第2節 自己実現と尊厳	講義	
6	第2節 自己実現と尊厳	講義	
7	第3節 こころの仕組みと基礎	講義	
8	第3節 こころの仕組みと基礎	講義	
9	第2章 からだの仕組みを理解する 第1節 からだの仕組み（消化管）	講義 配布資料あり	
10	〃 （肝・胆・膵）	講義 配布資料あり	
11	〃 （循環器）	講義 配布資料あり	
12	〃 （内分泌・代謝）	講義 配布資料あり	
13	〃 （腎・泌尿器）	講義 配布資料あり	
14	〃 （免疫・アレルギー・膠原病）	講義 配布資料あり	
15	〃 （血液・感染症）	講義 配布資料あり	
16	〃 （呼吸器・脳神経）	講義 配布資料あり	
17	〃 （小児科・婦人科）	講義 配布資料あり	

18	〃 (眼科・耳鼻科・皮膚科)	講義 配布資料あり	
19	〃 (整形外科・精神科)	講義 配布資料あり	
20	第3章 移動に関連したところとからだのしくみ 第1節 移動のしくみ	講義	
21	第2節 心身の機能低が移動に及ぼす影響	講義	
22	第3節 変化のきづきと対応	講義	
23	第4章 身じたくに関連したところとからだのしくみ 第1節 見じたくのしくみ	講義	
24	第2節 心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響	講義	
25	第3節 変化の気付きと対応	講義	
26	第5章 食事に関連したところとからだのしくみ 第1節 食事のしくみ	講義	
27	第2節 心身の機能低下が食事に及ぼす影響	講義	
28	第3節 変化の気づきと対応	講義	
29	○前期授業まとめ	講義	
30	○前期定期試験	試験	
31	第6章 入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ 第1節 入浴・清潔保持のしくみ ①	講義	
32	第1節 入浴・清潔保持のしくみ ②	講義	
33	第1節 入浴・清潔保持のしくみ ③	講義	
34	第2節 心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 ①	講義	
35	第2節 心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 ②	講義	
36	第3節 変化の気付きと対応 ①	講義	
37	第3節 変化の気付きと対応 ②	講義	
38	第3節 変化の気付きと対応 ③	講義	
39	第7章 排泄に関連したところとからだのしくみ 第1節 排泄のしくみ ①	講義	
40	第1節 排泄のしくみ ②	講義	
41	第1節 排泄のしくみ ③	講義	
42	第2節 心身の機能低下が排泄に及ぼす影響 ①	講義	

43	第2節 心身の機能低下が排泄に及ぼす影響 ②	講義	
44	第3節 変化の気付きと対応 ①	講義	
45	第3節 変化の気付きと対応 ②	講義	
46	第8章 休息・睡眠に関連したところとからだのしくみ 第1節 休息・睡眠のしくみ ①	講義	
47	第1節 休息・睡眠のしくみ ②	講義	
48	第1節 休息・睡眠のしくみ ③	講義	
49	第2節 心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響 ①	講義	
50	第2節 心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響 ②	講義	
51	第2節 心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響 ③	講義	
52	第3節 変化に気づくためのポイント ①	講義	
53	第3節 変化に気づくためのポイント ②	講義	
54	第3節 変化に気づくためのポイント ③	講義	
55	第9章 人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ 第1節 人生の最終手段に関する「死」のとりえ方	講義	
56	第2節「死」に対するこころの理解	講義	
57	第3節 終末期から危篤状態、死後の体の理解	講義	
58	第4節 終末期における医療職との連携	講義	
59	○後期授業まとめ	講義	
60	○後期定期試験	試験	

使用テキスト	最新介護福祉士養成講座 こころとからだのしくみ 第2版（中央法規）
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	発達と老化の理解、障害の理解 認知症の理解
この授業科目から発展する主な科目	医療的ケア基本研修 医療的ケア演習
成績評価の方法	定期試験（50点）出席（20点）、小テスト（20点）、態度（10点）
その他 受講生への要望等	この授業を通じて、人間の健康や疾患、老化現象の基礎的な知識を習得し、障害や老いを問わず、広い視野で理解することで、介護実践に役立てていきましょう。そのために、一度の授業だけでなく、繰り返し復習するようにして下さい。講義における積極的な参加と質問をして下さい。